

「マット運動」

ワクワクする授業を作ろう
～楽しいと感じる場면을授業
にちりばめて～

本単元で育成する資質・能力

主体性・自己有用感・説明力

1 単元のデザイン

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領解説体育編【B 器械運動】に示されているように、器械運動について次の事項を身に付けることができるように設定されている。

- (1) 次の運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技を身に付けること。
 - ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。
- (2) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすること。

【児童観】

本学級児童に6月実施したアンケートでは、「運動や体を動かすことは好きですか。」という問いに肯定的回答が75%。同じアンケートを行った、1・2年生は、90%、3・4年生は、100%と比較すると、本学級の児童は、運動に対する興味・関心はかなり低い傾向にある。

また、「体育の授業は、楽しいですか。」という問いの肯定的回答が62.5%であった。

複式学級という学級構成上、普段の授業から児童自身が課題を見つけて、学習の計画を立てて、学習を進めていく体験をしている。そのため、必然と教え合ったり、確かめ合ったりしながら学習をしている。

【指導観】

子供達が主体的に学習できる環境づくりの手立て

- ① 活動計画や内容を理解して、見通しをもって活動できる環境づくり
 - ・単元の最終目標とその学習過程を知らせて、子供達に具体的な単元最終の自分の姿を想像させて、子供達自身が自分で学習を進めていくという意識をもたせる。
- ② やってみたいくなる教具がそろった環境づくり
 - ・校内にある教具を多く活用して、子供達が待つことなく運動したり、多様な運動ができたりするように教具を配置して、いつでも挑戦したい運動ができるようにする。また、カラーコーンやカラーマットを使って、教具の配置や運動を始める入り口の位置を示し、運動に挑戦しやすくする。
- ③ 選択・決定をして運動ができる環境づくり
 - ・紹介された技の中から、やりたい技、挑戦したい技を選んで、決められた時間の中で自分が練習することを理解させて運動させる。また、活動中、指導者が子供達に何を目標に練習や運動をしているのかを指導者が確認をすることで、子供達に選択・決定の意味を理解させる。
- ④ 自分の学習の成果を実感できるふりかえり
 - ・自分が選択・決定したことやその学習の成果をふりかえらせることで、よりより学習方法を見つけさせたり、自己有用感をもたせたりする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○とび箱運動の行い方を理解できる。 ○選んだ技をグループで繰り返し、組み合わせたりすることができる。	○自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫している。 ○自分の考えたことを他者に伝えている。	○積極的に取り組もうとしている。 ○約束を守り助け合って運動をしようとしている。 ○場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。

3 単元の学習計画

時間	1校時 本時	2校時	3校時	4校時
学習内容	▽集団マット運動の学習方法を理解し、学習のめあてをもつ。	▽やりたい技や挑戦する技を決めて、時間配分を考えながら技に挑戦する。 めあて①できる技を使ってグループ演技をしてマット運動を楽しむ。 ②いろいろな技や組み合わせに挑戦することができる。		
評価	○自分のめあてを決めることができる。 ○場や器械・器具の安全に気を配ろうとしている。	○マット運動の行い方を理解している。 ○選んだ技をグループで繰り返したり、組み合わせたりすることができる。 ○自己の能力に適した課題の解決の仕方や、技の組み合わせ方を工夫している。 ○自分の考えたことを他者に伝えている。 ○積極的に取り組もうとしている。		
手立て	■説明する内容は、絵や図や文章を提示して視覚的に伝える。 ■単元最終での自分の演技をイメージさせて、学習の見通しをもたせる。	■本時でやりたい技や挑戦したい技を決めて学習を始めさせる。 ■「何をしているのか」「どうしてやっているのか」「どうなればよいのか」という問いかけをして、子供達に活動の目的を自覚させる。 ■練習のやり方に不安をもっている子供達には、友達の活動を見たり、友達に方法を聞いたりさせて、活動の参考にすることを理解させる。 ■選択する記述を多くして、ふりかえりを簡素化する。		
00分	教具の準備	教具の準備…同じマットに付いている色シールと同じ色の床のシールに、マットをセットする。		
05分	単元の活動の確認	準備運動…マット運動の動作を確認するための運動をする。 パワー50%、80%と出す力をセーブしながらマット運動をする。		
10分		活動の確認…本時の活動のめあてと活動時間、活動内容を確認する。 前時のふりかえりを紹介して、本時の活動の参考にさせる。		
15分		活動1 (7分間)		
20分	準備運動 (技をつなぐ動き)	ほっとタイム		
25分	活動	活動2 (7分間)		
30分		ほっとタイム		
35分	教具の片付け	活動3 (5分間)		
40分	ふりかえり	教具の片付け…グループで協力して、次に使う人たちのことを意識して、教具をもとの位置に戻す。 ふりかえり…本時で挑戦した技とその練習の仕方や時間の使い方など学習内容と方法を記入して、成果を見つける。		
45分				

「活動」

挑戦する技や練習の場などを決めて活動する。新しいことに挑戦するときは、友達のアドバイスや録画機能などを活用して解決する。

「ほっとタイム」

悩み相談の場であり、活動を見直したり、学習の目的を確認したりする。また、緊張感をほぐすために設定する。